

2023年度 第1四半期決算

2023年7月27日
富士電機株式会社

皆さんこんにちは、経営企画本部を担当しております荒井です。

1. 2023年度 第1四半期実績(対前年)	P. 3
2. 2023年度 業績予想(対4/27予想)	P. 11
3. 貸借対照表	P. 14
4. 補足資料	P. 16

1. 2023年度 第1四半期実績 (対前年)

私から、まず2023年度第1四半期の対前年で比較した実績をご説明いたします。

第1四半期 連結業績概要 (対前年)

売上高、営業損益、経常損益、純損益は過去最高を更新

	(単位: 億円)		
	2022年度	2023年度	増減
売上高	2,039	2,341	302
営業損益 (営業利益率)	99 (4.8%)	147 (6.3%)	48 (1.4%)
経常損益	123	151	28
特別損益	42	46	4
税金等調整前 四半期純損益	165	197	32
法人税等	53	63	10
非支配株主に帰属する 四半期純損益	13	11	-2
親会社株主に帰属する 四半期純損益	99	123	24

(期末レート:6月末)		(単位:円)	
US\$	136.68	144.99	8.31
EURO	142.67	157.60	14.93
RMB	20.38	19.94	-0.44

(平均為替レート)		(単位:円)	
US\$	129.57	137.37	7.80
EURO	138.12	149.47	11.35
RMB	19.58	19.56	-0.02

売上高増減	
海外子会社の為替換算差による増収 需要増	+23 +279

営業損益増減	
物量・生産増	+92
固定費増	-60
為替影響	+3
その他*	+14
	+48

*コストダウン、価格変動、機種構成差等

営業外損益増減	
金融収支	-5 (13 → 8)
為替差益	+0 (16 → 16)
その他	-15 (-4 → -19)
	-20 (24 → 5)

特別損益増減	
投資有価証券売却益	+2 (44 → 46)
その他	+3 (-3 → -0)
	+4 (42 → 46)

まず4ページ目です。

今回、第1四半期においては、為替の影響が若干ありました。実質ベースで大幅に増収増益となりまして、売上、営業損益、経常損益、純損益は、第1四半期としては過去最高を更新することができました。

売上高ですが、302億増の2341億円、為替を除きまして、279億の増ということになります。営業損益が48億増の147億円、営業利益率が1.4%増の6.3%ということになりました。

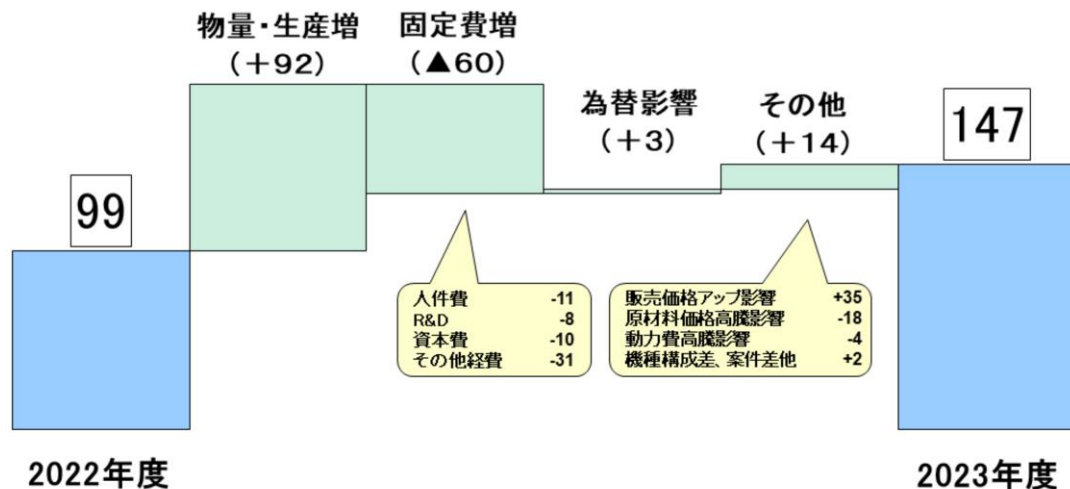
営業外損益では、為替差益の影響はありませんでしたが、金融収支において前期に配当のずれがあったこと、それからその他ということで、マレーシアにおける媒体から半導体の事業転換費用等々が入りまして、対前年で20億のマイナスということになります。経常損益が28億増の151億円。特別損益が4億増の46億円ということで、内訳としては投資有価証券、それから固定資産の売却益ということでプラスの4億ということになります。

当期純損益については24億増の123億ということで、当期利益が3桁億円となりました。

第1四半期 営業損益増減分析 (対前年)

原材料価格や動力費の高騰、固定費増による悪化影響があるものの
物量・生産増や販売価格アップ等により増益

(単位:億円)



続きまして5ページ目です。

営業損益の増減を階段グラフにしております。物量、売上、生産増ということで92億のプラスの要因となっております。内容的には施設・電源システム、それから半導体の車載、ファクトリーオートメーション、店舗流通といったところで増えています。残念ながら器具は対前年マイナスでありましたけれども、トータルとして92億のプラスということになります。

固定費につきましては、人件費、R&D、資本費、その他ということで外注委託費、管理可能経費、特に旅費、交通費ということで、事業の拡大に伴いまして、固定費が増えまして、損益的には60億のマイナスということになります。

為替の影響がプラスの3億、その他ということで原材料費の価格高騰、動力費の高騰の影響というのがそれぞれ18億と4億マイナスとして入ってますが、それらをカバーして売値のアップということで35億を計上することができて、トータルとしてその他でプラス14億、総額として48億の営業損益の増ということになりました。

第1四半期 セグメント別売上高・営業損益 (対前年)

売上高は、全セグメントで増収
営業利益は、パワーエレクトロニクスおよび食品流通を主因に増益

(単位:億円)

	2022年度			2023年度			増減		
	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率	売上高	営業損益	営業利益率
パワーエレクトロニクス	513	39	7.6%	580	44	7.6%	68	5	0.0%
パワーエレクトロニクス	652	-18	-2.8%	762	-3	-0.4%	111	15	2.4%
半導体	462	71	15.4%	511	71	14.0%	49	0	-1.4%
発電プラント	168	1	0.6%	184	9	4.9%	16	8	4.3%
食品流通	217	16	7.5%	278	32	11.4%	61	15	3.9%
その他	143	7	5.2%	158	10	6.6%	15	3	1.4%
消去または全社	-115	-18	-	-131	-17	-	-16	1	-
合計	2,039	99	4.8%	2,341	147	6.3%	302	48	1.4%

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

6

6ページ目に、セグメント別に売上と営業損益を載せてあります。

全ての部門で増収増益ということになりまして、とりわけ利益では、パワーエレクトロニクス、それから食品流通といったところが2桁の利益増ということになりました。

利益率で言いますと、半導体が14%、食品流通はおそらく過去最高となる11.4%という利益率を出すことができました。

第1四半期 セグメント別概況① (対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況
エネルギー	売上高	513	580	68 +8*	エネルギーマネジメント 20%増収 産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の影響等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 施設・電源システム 38%増収 国外のデータセンター及び半導体メーカー向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 器具 6%減収 セットメーカー及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
	営業損益	39	44	5 +1*	
パワエレ	売上高	652	762	111 +5*	オートメーション 10%増収 低圧インバータ等における部材調達難の緩和に伴う生産増や受注残の消化を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 社会ソリューション 16%増収 放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 設備工事 26%増収 空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 ITソリューション 30%増収 公共及び文教分野の大口案件等の需要増により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
	営業損益	-18	-3	15 -1*	
				*為替影響	

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

7

7ページ目8ページ目でそれぞれのセグメント別の内容について、もう少し詳しくご説明をいたします。

パワエレ エネルギーですが、売上高が68億増の580億、営業損益が5億増の44億ということになります。エネルギーマネジメントにつきましては、増収増益ということで、産業向け変電設備、電源機器の大口案件があった影響で増収、利益は若干の増ということになります。

施設・電源システムにおいては大幅に増収増益ということで、これはシンガポールにあります子会社、盤を作ってる会社ですけども、ここが大幅増となりました。通常は盤ですと利益率は5~6%なんですけど、毎年10%以上の利益率を稼ぎ出しております、今回第1四半期では利益率15%以上というような内容になっております。

器具部門につきましては、当初から減収減益ということで、期初の計画から市場がかなり厳しい状況だと見込んでおりましたが、見込み通り器具については減収減益ということになりました。但し、その中でも利益率は2桁を稼ぎ出しているということで、減収になりましても、今までの打ち手が効いてきていると考えております。

パワエレ インダストリーですが、売上高が111億増の762億、営業損益が15億増の絶対額ではマイナスの3億ということになります。オートメーション増収増益ということで、とりわけ低圧インバータは去年まで部材調達が厳しい面がありましたけれども、これが緩和したということで、受注残も多くありまして、生産をすることができ、売上営業損益ともに増収増益ということになりました。

社会ソリューションについては放射線機器の案件で寄与したということで、増収増益、設備工事は空調設備の大口案件があったことにより増収、損益は微増ということになります。ITソリューションは、増収増益。公共分野、文教分野の大口案件が寄与したという内容でございます。

第1四半期 セグメント別概況② (対前年)

(単位:億円)

		2022年度	2023年度	増減	概況												
半導体	売上高	462	511	49 +8*	電動車 (xEV)向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前年同期を上回りました。 営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、売上高の増加により、前年同期と同水準となりました。												
	営業損益	71	71	0 +2*													
		売上高内訳 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業</td> <td>270</td> <td>252</td> <td>-18</td> </tr> <tr> <td>電装</td> <td>192</td> <td>259</td> <td>67</td> </tr> </tbody> </table>				2022年度	2023年度	増減	産業	270	252	-18	電装	192	259	67	
	2022年度	2023年度	増減														
産業	270	252	-18														
電装	192	259	67														
発電プラント	売上高	168	184	16	再生可能エネルギーの大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。												
	営業損益	1	9	8													
食品流通	売上高	217	278	61	自販機 25%増収 国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。 店舗流通 31%増収 コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。												
	営業損益	16	32	15													
				*為替影響													

©2023 Fuji Electric Co., Ltd. All rights reserved.

8

8ページ目です。

半導体は売上高が49億増の511億で営業損益がほぼ横ばいということでプラス0の71億ということになります。産業分野については、民生品の減ということで、減収ですが損益は若干の減ということになります。

電装分野は大幅にプラスということで、EV向けの増収で損益は微増ということになります。パワー半導体の生産能力増強ということで資本費が増加、原材料も高騰しているという中で、物量の増、それから売値のアップということも含めて損益的にはプラスの0という内容となっております。

発電プラントにつきましては、売上高が16億増の184億、営業損益が8億増の9億ということで、水力の関係の大口の案件があったことで増収増益ということになりました。

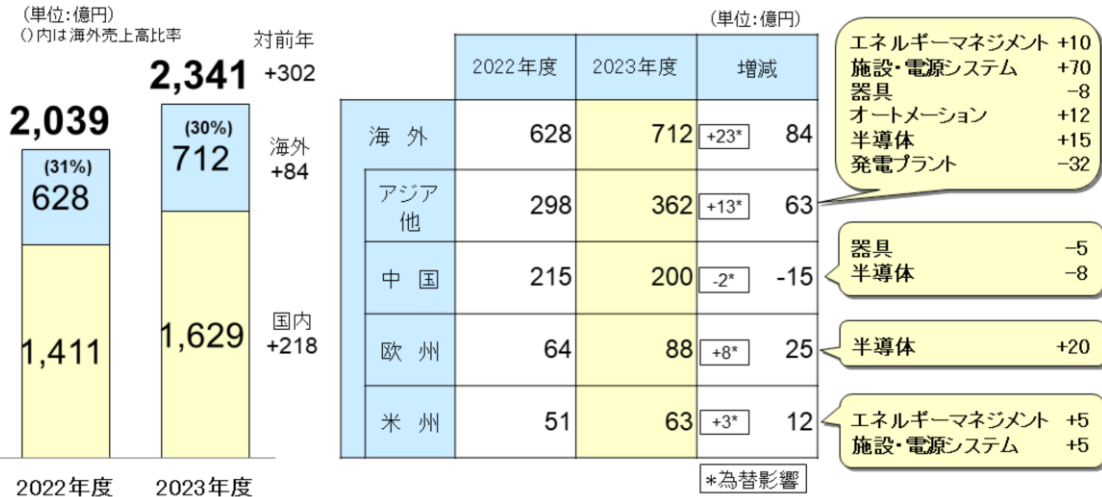
食品流通が1Q決算のポイントとなりますけれども、自販機、店舗流通ともに大幅に増収増益ということになりました。

利益率につきましても、両方の分野で11%を超える利益率を稼ぎ出しております。自販機については、中国を主体とした海外売上は少し予算未達となりましたけれども、国内の飲料メーカーの需要拡大に加え、損益的にも原価低減ということがあって、大幅に増益を達成することができました。

店舗流通においても増収増益となりまして、コンビニの店舗改装、それからカウンターの商材の案件の増ということで、食品流通の第1クォーターは非常に好調に推移いたしました。

第1四半期 国内/海外・地域別売上高 (対前年)

中国の減収を他地域でカバーし増収



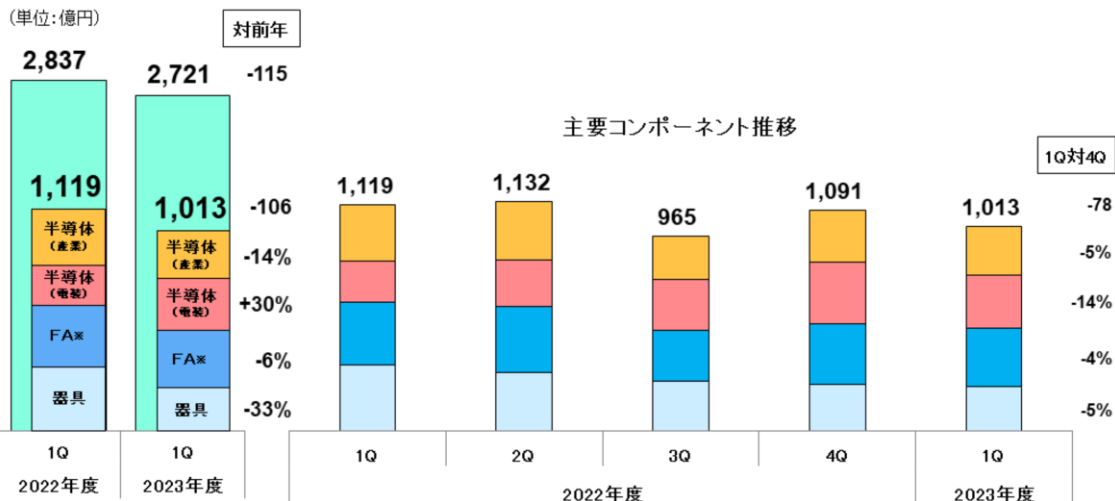
9ページ目に、国内と海外地域別売上高のグラフを載せております。対前年で302億増ですが、海外で84億増、国内で218億増。

海外売上高比率は30%強ということになります。海外を対前年同期で見えていきますと、84億増の712億、アジアで63億増の362億ということで、エネルギーマネジメント、施設・電源システム、オートメーション、半導体といったところでプラスとなっております。

欧州は半導体で25億増の88億、米州でエネルギーマネジメント、施設・電源システムを中心に12億増の63億となっておりますが、中国においてはやはり市況が悪いということで、器具、半導体を主体にして、対前年15億のマイナスの200億という内容となっております。

第1四半期 主要コンポーネント 受注高

主要コンポーネントの1Q受注高は、半導体(電装)を除き減少



※FA: 低圧インバータ、回転機、FAコンポーネント、計測機器

10ページ目に主要コンポーネントの受注高ということで載せております。

全体としまして第1クォーターとの比較で115億減の2721億の受注でした。主要コンポーネントを見ても106億減の1013億ということで、半導体の電装は前年に比べて30%アップしましたが、器具分野で33%のマイナス、半導体の産業で、マイナス14%ファクトリーオートメーションもマイナス6%という結果となっております。ただ、1Qの計画からはですね、全体としては約140億の増、主要コンポーネントとしては80億を切る程度のプラスとなっております。

とりわけ、ファクトリーオートメーションは計画よりも40数億、それから、半導体の作業については20数億増ということで、器具分野においても対前年はマイナスですが計画。に対しては数億円のプラスという状況となっております。

2Q以降については器具分野はおそらく足踏みをするのではないかと見ておりますが、半導体の電装分野については、大幅に増加していくというふうに見ております。

2. 2023年度 業績予想 (対4/27予想)

第2四半期累計 連結業績概要 (対4/27予想)

第2四半期累計は、足元の状況を踏まえ上方修正

(単位:億円)	4/27予想		7/27予想		増減		第2四半期の前提為替レート			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	US\$	EURO	RMB	
売上高	4,660		4,740		+39*	80	4/27予想	¥125.00	¥135.00	¥18.50
営業損益 (営業利益率)	282 (6.1%)		300 (6.3%)		+8*	18 (0.2%)	7/27予想	¥130.00	¥145.00	¥18.50
経常損益	255		275			20	為替感応度※ (億円)	0.1	0.3	0.7
親会社株主に帰属する 四半期純損益	175		195			20	*営業損益ベース(7-9月の3ヶ月影響) US\$, EUROは1円円安変動影響、RMBは1円円安変動影響			
(単位:億円)	4/27予想		7/27予想		増減					
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	増減			
パワエレ エネルギー	1,240	84	1,240	84	+8*	0	+1*	0		
パワエレ インダストリー	1,590	26	1,600	30	+13†	10	+2*	4		
半導体	1,050	150	1,050	155	+16†	0	+4*	5		
発電プラント	300	8	310	0		10		-8		
食品流通	480	38	520	50		40		12		
その他	290	14	310	18		20		4		
消去または全社	-290	-38	-290	-37		0		1		
合計	4,660	282	4,740	300	+39*	80	+8*	18		

*為替影響

続きまして12ページから、第2四半期の累計、それから年間の累計の比較をしていきます。

年間におきましては、大きく数字を変えておりません。為替について変更してるといのが主な要因となっております。

まず12ページ目上半期の比較4月の予想との比較を置いております。売上高については80億増の4740億、営業損益が18億増の300億、経常損益が20億増の275億、純損益が20億増の195億というふうに予想値を置いております。

為替を今回実勢レートに近い水準に合わせましてドルを125円から135円、ユーロ130円から145円アップさせております。人民元については引き続き18.5ということになります。

各部門の数字は、パワエレのエネルギーは売上損益ともに4月の予想を変えておりません。インダストリーにおいては、売上損益ともにアップ。半導体については、売上はそのまま、損益を5億アップしております。発電プラントは増収ですが、案件差により損益は8億のマイナスということになります。食品流通が大幅に増ということ、40億の増収に加え利益が12億上振れているというような内容でございます。

通期 連結業績概要 (対4/27予想)

通期業績予想は、前提為替レートの変更影響を反映

(単位:億円)	4/27予想		7/27予想		増減	第2～4四半期の前提為替レート		
	売上高	営業損益	売上高	営業損益		US\$	EURO	RMB
売上高	10,500		10,600		100			
営業損益 (営業利益率)	940 (9.0%)		960 (9.1%)		20 (0.1%)	4/27予想 ¥125.00	¥135.00	¥18.50
経常損益	920		945		25	7/27予想 ¥130.00	¥145.00	¥18.50
親会社株主に帰属する 当期純損益	625		645		20	為替感応度※ (億円)	0.6	1.1
						*営業損益ベース(7-3月の9ヶ月影響) US\$, EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響		
(単位:億円)	4/27予想		7/27予想		増減			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益		
パワエレ エネルギー	2,750	270	2,770	273	20	3		
パワエレ インダストリー	3,780	295	3,820	302	40	7		
半導体	2,210	328	2,250	338	40	10		
発電プラント	830	42	830	42	0	0		
食品流通	960	50	960	50	0	0		
その他	600	34	600	34	0	0		
消去または全社	-630	-79	-630	-79	0	0		
合計	10,500	940	10,600	960	100	20		

続きまして年間の比較ですけれども、13ページ目になります。

年間も第2クォーター同様前提為替レート、USドル、ユーロを変更しております。売上高については100億増の1兆600億、営業損益が20億増の960億、営業損益率で0.1%アップの9.1%、経常損益が25億増の945億、当期純損益が20億増の645億ということで、いずれも半期年間ともにアップをさせております。

部門別にはパワエレ エネルギー、パワエレ インダストリー、半導体で増収増益を計画をしております。発電プラント食品流通等々については、そのまま数値を置いております。下期については実際には精査をしております。為替の動向、あるいは市場動向、特に海外では中国の状況をきっちりと捉えまして、10月に改めて見直し、発表をしていきたいと考えております。

3. 貸借対照表

第1四半期末 連結貸借対照表 (対前年度末)

資産の部				負債、純資産の部			
	23/3/31	23/6/30	増減		23/3/31	23/6/30	増減
現金及び預金	847	487	-360	買入債務	2,016	1,732	-284
売上債権	3,885	3,408	-477	有利子負債	1,833	1,531	-302
棚卸資産	1,987	2,217	230	その他負債	2,246	2,241	-6
その他	417	513	96	負債 合計	6,095	5,503	-591
流動資産 計	7,136	6,624	-512	資本金	476	476	—
有形固定資産	2,839	2,885	46	資本剰余金	460	460	—
無形固定資産	240	246	5	利益剰余金	3,649	3,687	37
投資その他の資産	1,600	1,571	-29	自己株式	-74	-74	-0
固定資産 計	4,679	4,702	22	株主資本	4,511	4,548	37
繰延資産	1	0	-0	その他の包括利益累計額	660	745	85
資産 合計	11,816	11,326	-490	非支配株主持分	550	529	-21
ネット有利子負債※1	991	1,050	59	純資産 合計	5,721	5,823	102
ネットD/ELレシオ※2	0.2倍	0.2倍	0.0倍	負債・純資産 合計	11,816	11,326	-490
自己資本比率	43.8%	46.7%	3.0%				

※1 ネット有利子負債：有利子負債-現金及び現金同等物
 ※2 ネットD/ELレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

続きまして、貸借対照表です。これは昨年度末、3月31日と今年の6月30日、第1クォーターの比較をしております。売上債権が回収が進んだということで、477億の減。棚卸資産がコンポーネントそれとプラント系両方とも増えまして230億増ということになります。

また固定資産も半導体主体にして増やしております46億増、一方、投資その他の資産ですが、政策保有株式の計画的な削減を進めております、29億減ということになります。総資産では490億減の1兆1326億ということになります。

現金を360億減らしまして、有利子負債も合わせて300億強減らすという内容になっております。ネット有利子負債は1050億、ネットD/ELレシオで0.2倍、自己資本比率に関しては3%アップの46.7%という内容でございます。

4. 補足資料

■ 器具受注高		1Q(対前年度4Q)	1Q(対前年)
全体		-5%	-33%
国内		-7%	-31%
海外		-0%	-38%

■ 低圧インバータ受注高		1Q(対前年度4Q)	1Q(対前年)
全体		-27%	-37%
国内		-22%	-34%
海外		-29%	-39%

■ 半導体受注高		1Q(対前年度4Q)	1Q(対前年)
全体		-10%	+4%
産業		-5%	-14%
電装		-14%	+30%

■ 自販機受注高		1Q(対前年度4Q)	1Q(対前年)
全体		+7%	+25%

補足資料として17ページ以降に載せてございます。

器具、低圧インバータ、半導体、それから自販機ということで、1Q対前年の4Q、1Q対前年の1Qということで載せておまして、半導体の受注、電装分野の1Q対前年、それから自販機の1Q対前年、1Q対前年の4Qはプラスですがその他はマイナスという状況であります。

補足資料 第2四半期累計 連結業績概要 (対前年)

(単位:億円)	2022年度 実績	2023年度 7/27予想	増減
売上高	4,471	4,740	269
営業損益	267	300	33
(営業利益率)	(6.0%)	(6.3%)	(0.3%)
経常損益	289	275	-14
親会社株主に帰属する 四半期純損益	203	195	-8

(単位:億円)	2022年度 実績		2023年度 7/27予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
パワエレ エネルギー	1,156	96	1,240	84	84	-12
パワエレ インダストリー	1,502	11	1,600	30	98	19
半導体	970	149	1,050	155	80	6
発電プラント	348	-5	310	0	-38	5
食品流通	448	32	520	50	72	18
その他	286	15	310	18	24	3
消去または全社	-239	-32	-290	-37	-51	-5
合計	4,471	267	4,740	300	269	33

18ページ目に第2四半期累計の連結業績を対前年で載せております。

売上高、営業損益でプラス、経常損益では営業外で為替のマイナスが入っていることもありまして、対前年ではマイナスということになります。

部門別では、パワエレ エネルギーで営業損益がマイナスになってますが、これは器具分野の影響です。

インダストリーは増収増益、半導体も増収増益、発電プラントは前年に大口の案件があったということで、売上がマイナスということになります。食品流通は増収増益ということになります。

補足資料 通期 連結業績概要 (対前年)

(単位:億円)	2022年度 実績	2023年度 7/27予想	増減
売上高	10,094	10,600	506
営業損益 (営業利益率)	889 (8.8%)	960 (9.1%)	71 (0.3%)
経常損益	878	945	67
親会社株主に帰属する 当期純損益	613	645	32

(単位:億円)	2022年度 実績		2023年度 7/27予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
パワエレ エネルギー	2,641	269	2,770	273	129	4
パワエレ インダストリー	3,534	249	3,820	302	286	53
半導体	2,062	322	2,250	338	188	16
発電プラント	873	36	830	42	-43	6
食品流通	953	44	960	50	7	6
その他	598	37	600	34	2	-3
消去または全社	-567	-67	-630	-79	-63	-12
合計	10,094	889	10,600	960	506	71

最後のページですが、19ページ目に年間の前年の実績との比較を載せております。

売上、営業損益、経常損益、当期損益ともに増収増益ということで、これは為替の関係で、売上で45億のマイナス、営業損益で31億のマイナスを含んだ数字となっております。事業部門別では、発電プラントが減収になります。

その他のところでは増収、発電プラントも含め全部門の増益ということで、前年に比べて506億の増収、71億の営業損益の増ということで、1兆600億の960億というような売上、営業損益ということになります。

今後の下振れ要因としまして全体を見ますと、計画よりも需要減となっている器具分野があります。上振れ要因としましては、先ほど言いました食品流通、パワエレインダストリーについても、ファクトリーオートメーションで受注残がありまして、調達部材も去年に比べて改善してきました。

個人的にはファクトリーオートメーションを主体にして、パワエレインダストリーも上振れ余地があるのではないかなと考えております。

毎回申し上げておりますけれども為替に関しましてはレートを見直しましたけれども、現在のレートでいけば、上期ですらにおそらく10数億円、年間では40数億円の上振れ余地があると考えております。

経費につきましては上期で数億円プラス、年間では20億円程度削減できる余地があると考えております。経営企画本部を担当する私としましては、2Q以降もこの数字以上の業績になるという期待感を持って、今後もきちんと見ていきたいというふうに考えております。

私からは以上です。

1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。